

第4回吉田城薪能 番組

午後6時開演

解説「今宵のお楽しみ」——辰巳満次郎

仕舞

「氷室」	氷室 神	和久 莊太郎
「小袖曾我」	十 郎	辰巳 大二郎
	五 郎	辰巳 和磨
「鶉之段」	鶉 使い	石黒 孝

狂言

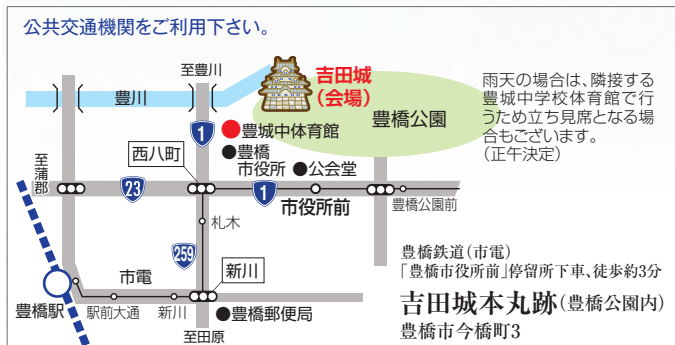
「仏師」	すっぱ	井上 靖浩
	田舎人	佐藤 友彦

火入れ

能

「鞍馬天狗」	シテ	辰巳満次郎
	牛若	石黒 空
	花見兒	地元の子供達
	東谷僧	福王 和幸
	能力	佐藤 融
	木葉天狗	井上 靖浩
	笛	大野 誠
	小鼓	船戸 昭弘
	大鼓	笥 紘一
	太鼓	加藤 洋輝
	後見	山内 崇生
	地謡	辰巳大二郎
		石黒 孝
		佐藤 耕司
		和久 莊太郎
		辰巳 孝弥
		澤田 宏司
		辰巳 和磨
		織田 哲也
		玉井 道夫

午後8時頃終了予定



狂言「仏師」

仏像を作ってもらおうと都へきた男をだまそうとするスッパ(心の良くない者)。仏像を作る仏師になりすました上に、仏像に化けるが…。

能「鞍馬天狗」

鞍馬山は桜が満開です。西谷よりの知らせを受けた住僧(ワキ)は、鞍馬寺で修行中の子ども達(花見稚児、清盛の子達と牛若)を伴い、花見に出かけます。

宴を催していると1人の山伏(前シテ)が現れ、興ざめた一同は帰ってしまいますが、仲間はずれの牛若(子方)だけ取り残されます。

牛若の優しさと忍耐強さに打たれた山伏は、牛若を連れて空を飛び桜の名所を案内してやります。

驚いた牛若が素性を尋ねると、鞍馬山の大神と名乗り、兵法を授けてやるから明日又ここに来いと言い、空に飛び去ります。(中入)

長刀に鎧を身につけて待つ沙那王(牛若)に、現れた大神(後シテ)は中国の故事、張良が黄石公から戦の秘伝を授かった話をもとに、兵法を伝授します。

そして、平家を打つためにいつも影身に添うことを誓い、また飛び去りました。

稚児たちが花見に出かける道行きの謡「花咲かば 告げんと言ひ 山里の」は時代劇でお馴染みの幕末のヒーロー「鞍馬天狗」がいつも口ずさむ謡です。

平家一党の時代を改革する手助けをした天狗に因み、明治の維新を手助けすべく暗躍する彼も天狗を名乗ったのでしよう。



解説・「鞍馬天狗」シテ
辰巳 満次郎



「仏師」シテ
井上 靖浩

シテ方宝生流職分。能楽協会東京支部所属。日本能楽会会員。故宝生英雄、故父辰巳孝に師事。「巽会」「宝生流あまねく会」を主宰、地元の「東海巽会」豊橋支部に於いて能の指導・普及活動を行う。東京のほか全国的な舞台活動に励む。海外公演多数。新作品「マクベス」の節付・演出・主演をする。

東京芸大音楽学部邦楽科卒。能楽協会理事。三河三座顧問。04年大阪文化祭賞奨励賞受賞。重要無形文化財総合指定。59年生まれ。東京都在住。第1回吉田城薪能「黒塚」シテ演能。

父・四世菊次郎(祐一)とともに大学までは横浜に居住、当時は故和泉元秀の下、主に東京での舞台公演で修業・活動。東京藝術大学音楽学部卒業で狂言を専攻、在学中は野村萬・野村万作両師の指導も受けた。卒業後、佐藤融らとともに「狂言なおり座」を結成。また共同社の若手と「ナディア狂言」を主宰するなど、次代を担う中堅狂言師として大いに期待されている。先年長男蒼大も初舞台を踏み、後進の指導・育成も務める。金城学院大学非常勤講師。名古屋女子大学狂言部指導。